



登米地域の稲作通信 第7号

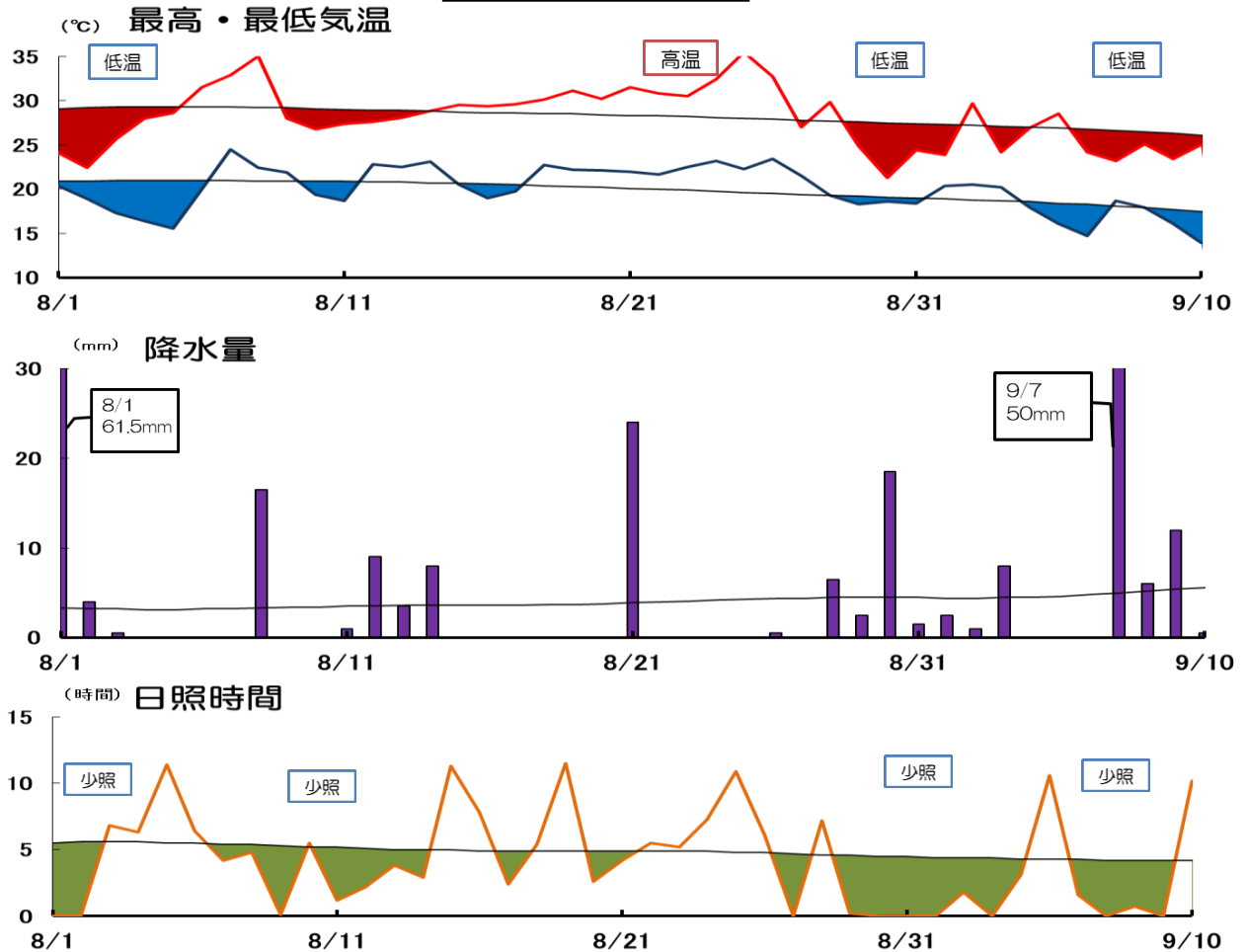
令和8年9月15日発行
宮城県米づくり推進登米地方本部
宮城県登米農業改良普及センター
Tel: 0220-22-6127



<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

1 気象経過

観測地点：米山アメダス



8月は平年と比べ、上旬は平均気温が低く（平年差 -1.1°C ）、日照時間が少なく（平年比93%）、降水量は8月1日に61.5mmの大雨があり、多く（平年比255%）になりました。中旬は平均気温がやや高く（平年差 $+0.6^{\circ}\text{C}$ ）、日照時間は平年並み（平年比103%）、降水量は少なく（同59%）になりました。下旬は平均気温が高く（平年差 $+1.0^{\circ}\text{C}$ ）になりましたが、日照時間は少なく（平年比89%）、降水量はやや多く（同113%）になりました。

9月上旬は、平均気温がやや低く（平年差 -0.8°C ）、日照時間が少なく（平年比65%）なり、降水量は9月7日に50mmの降雨があるなど多く（同165%）になりました。

【気象経過（旬別平年差・比）】

	8月									9月		
	上旬			中旬			下旬			上旬		
	平均気温 ($^{\circ}\text{C}$)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	平均気温 ($^{\circ}\text{C}$)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	平均気温 ($^{\circ}\text{C}$)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	平均気温 ($^{\circ}\text{C}$)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)
本年値	23.2	45.5	82.5	24.5	51.1	21.5	24.1	46.6	53.5	21.2	28.0	80.0
平年値	24.3	54.6	32.4	23.9	49.8	36.2	23.1	52.1	47.3	22.0	42.9	48.4
平年差・比	-1.1	83%	255%	0.6	103%	59%	1.0	89%	113%	-0.8	65%	165%

※上旬は1～10日まで、中旬は11～20日まで、下旬は21～31日までの期間。

2 生育状況

【管内の出穂状況】

地域区分	出穂始期		出穂期		穂揃期	
	令和8年	平年	令和8年	平年	令和8年	平年
北部平坦	7月28日 (+1)	7月27日	7月31日 (±0)	7月31日	8月10日 (+3)	8月7日
三陸沿岸	7月29日 (+1)	7月28日	8月3日 (+2)	8月1日	8月11日 (+4)	8月7日
管内	7月28日 (+1)	7月27日	7月31日 (±0)	7月31日	8月10日 (+3)	8月7日

※出穂始期・出穂期・穂揃期は、それぞれほ場の50%以上出穂した面積が5%、50%、95%に達した日。

※平年値は、過去5か年（令和3年～令和7年）の平均値。

管内の出穂期は平年と同じ7月31日となりました。穂揃期は平年より3日遅い8月10日となりました。

【出穂後25日調査結果（移植）】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	栽植密度 (株/㎡)	移植日	穂揃期	出穂後25日						
							葉色 (GM)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	葉色 (GM)	1穂粒数 (粒)	㎡粒数 (百粒)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	15.9	前年比・差 -4日 平年比・差 +8日	5月17日	32.3 -2.5 -1.3	82.5 85% 92%	18.4 96% 96%	422.9 90% 94%	30.4 -0.2 -0.8	71.8 98% 99%	303.6 88% 93%
2	ササニシキ	Cタイプ (復活ササニシキ)	豊里町	15.4	前年比・差 ±0日 平年比・差 ±0日	5月12日	35.5 0.0 2.6	78.6 100% 98%	18.3 99% 98%	381.6 120% 109%	30.9 -0.8 2.6	84.9 114% 105%	324.0 136% 115%
3	にじのきらめき	高温対策技術展示ほ	中田町	15.8	—	5月10日	32.1	72.9	18.8	442.4	30.5	77.6	343.3
	ひとめぼれ	県内平均	県内15地点 平均	17.1	前年比・差 平年比・差	5月14日	33.3 1.2 0.6	83.5 95% 96%	18.9 99% 100%	411.6 98% 96%	32.3 0.2 1.3	70.1 96% 100%	275.3 91% 92%

※栽培タイプ「Cタイプ」：農業・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減：農業8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年（令和3年～令和7年）の平均値。「にじのきらめき」は令和8年度から設置したため平年値・前年値なし。

出穂後25日調査結果は、中田のひとめぼれでは稈長（82.5cm）、穂長（18.4 cm）、穂数（422.9 本/㎡）とともに平年を下回り、一穂粒数（71.8 粒/本）は平年並み、㎡当たり粒数（303.6 百粒/㎡）は平年比で93%となりました。また、県内生育調査ほのひとめぼれ（15地点）の平均は、一穂粒数は平年並みでしたが、㎡当たり穂数が平年値を下回ったため、㎡当たり粒数も平年を下回っています。（平年比92%）

【出穂後25日調査結果（乾田直播）】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	播種月日	苗立ち本数 (本/㎡)	穂揃期	出穂後25日						
							葉色 (GM)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	葉色 (GM)	1穂粒数 (粒)	㎡粒数 (百粒)
1	ササニシキ	アラ耕 グレートリル体系	豊里町	4月20日	令和8年調査値	145.6	31.9	77.3	17.6	440.9	29.2	71	313.0
2	【参考】 ササニシキ	アラ耕 グレートリル体系	米山町	4月25日	R3～7年の 平均値	79.4	34.7	86.4	19.6	381.9	35.0	98.9	377.7

※令和8年度から調査地点を豊里町に変更しています。

※2の【参考】ササニシキ(米山町)は令和3～7年の5か年間の平均値を使用しています。

豊里の乾田直播栽培のササニシキでは、㎡当たり粒数が313百粒となっており、乾田直播栽培における「ササニシキ」の目標収量（550kg～650kg）を達成するための収量構成要素の目安（㎡当たり粒数320～350百粒）を概ね確保しています。

3 今後の管理

(1) 適期刈取

1) 出穂後の積算平均気温による刈取時期の判定

【品種別出穂後積算気温による刈取適期の目安】

品種	出穂後積算平均気温	出穂後日数	品種	出穂後積算平均気温	出穂後日数
ひとめぼれ	940～1,100℃	40～45日	だて正夢	1,020～1,060℃	50日前後
まなむすめ	960～1,050℃		金のいぶき	1,050～1,150℃	50～55日
ササニシキ	930～1,150℃	45～50日	つや姫	1,000～1,200℃	48～60日
みやこがねもち	950～1,150℃		つきあかり	1,000～1,100℃	38～43日

※つや姫は、出穂後1,200℃を超すと茶米の発生が多くなるため、刈り遅れに注意が必要です。

刈取時期が遅くなるほど整粒歩合は低下し、その他未熟粒、基白粒が増加します。特に、出穂後積算気温が1,200～1,300℃になると、胴割粒等も発生して整粒歩合はさらに低下します。

コンバインや乾燥機の点検などを進め、刈取適期になったら速やかに刈取りができるよう準備しておきましょう。刈遅れによる胴割粒や着色粒などの品質低下を防ぐため、籾の熟色等をよく観察し適期刈取りに努めましょう。

【出穂期からの積算気温に基づく刈取適期予測】

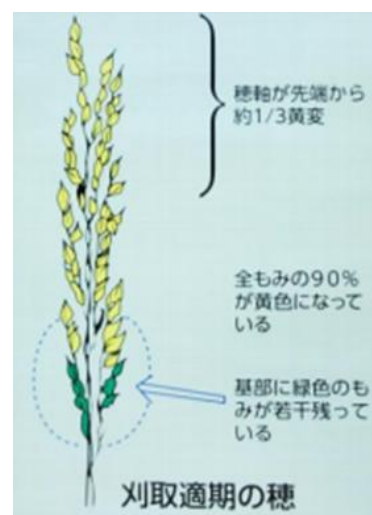
品種	出穂後積算平均気温	刈取適期(出穂期)						
		(7月28日)	(7月30日)	(7月31日)	(8月1日)	(8月4日)	(8月6日)	(8月10日)
ひとめぼれ	940～1100℃	9/6～9/13	9/9～9/15	9/10～9/17	9/11～9/18	9/14～9/21	9/16～9/24	9/21～9/29
ササニシキ	930～1150℃	9/6～9/15	9/8～9/18	9/9～9/19	9/10～9/20	9/13～9/24	9/16～9/26	9/21～10/2
つや姫	1000～1200℃	9/9～9/18	9/12～9/21	9/13～9/22	9/14～9/23	9/17～9/27	9/19～9/29	9/25～10/5
だて正夢	1020～1060℃	9/10～9/11	9/12～9/13	9/14～9/15	9/15～9/16	9/18～9/19	9/20～9/21	9/26～9/27
金のいぶき	1050～1150℃	9/12～9/15	9/14～9/18	9/15～9/19	9/16～9/20	9/19～9/24	9/22～9/26	9/27～10/2
つきあかり	1000～1100℃	9/9～9/13	9/12～9/15	9/13～9/17	9/14～9/18	9/17～9/21	9/19～9/24	9/25～9/29

※気温の積算値は9月10日までは実測値。9月11日以降はアメダス(米山)の5ヶ年平年値を用いた。(令和3～7年)

2) 籾の黄化程度

刈取始期は、籾の黄化程度で判断します。ほ場全体を平均して籾の80～90%程度が完全に成熟して黄色になり、穂軸が先端から3分の1程度黄変した時期が刈取始期となります。

稈実籾の平均水分は降雨によりバラツキを生じるものの、「ひとめぼれ」、「ササニシキ」、「まなむすめ」では、登熟期間全体を通してみれば、平均気温の積算値が約50℃増えるごとに稈実籾の平均水分が1%減少するというデータがあります。今年は、今後も高温が続くと予想されています。籾の状態をよく観察し、刈遅れにならないように注意しましょう。



(2) 収穫作業

○コンバイン収穫で、籾水分が25.0%以下になってから刈取作業を行いましょう。

○複数の品種の刈取りを行う場合には、品種が替わる際に十分な清掃を行い、異品種の混入を未然に防ぎましょう。

○クサネムやツユクサは、脱穀時に種子が混入すると、揺動式比重選や粒径選でも取り除くことができないので、収穫作業前に必ず抜き取りましょう。

＜籾熟色によるコンバイン収穫期の予測判定＞

ひとめぼれでは、平均的穂数株(枝梗数 8)の中位二次枝梗籾の籾色を観察することにより成熟段階を判定でき、刈取適期を予測できます(図 参照)。

- ◆成熟段階Ⅰ：第 1 位籾が急速に黄化開始。
 - ◆成熟段階Ⅱ：第 1 位籾がほぼ(90%)黄化。(7 日以内で刈り取り早限)
 - ◆成熟段階Ⅲ：第 1 位籾がほとんど(95%)黄化し、第 2・3 位籾が黄化開始(刈り取り早限)
 - ◆成熟段階Ⅳ：第 1 位籾の黄化 100%、第 2・3 位籾の 30%が黄化(積算温度 1000℃程度)
 - ◆成熟段階Ⅴ：第 2・3 位籾が 50%以上黄化(刈り取り晩限)
- } 刈取適期

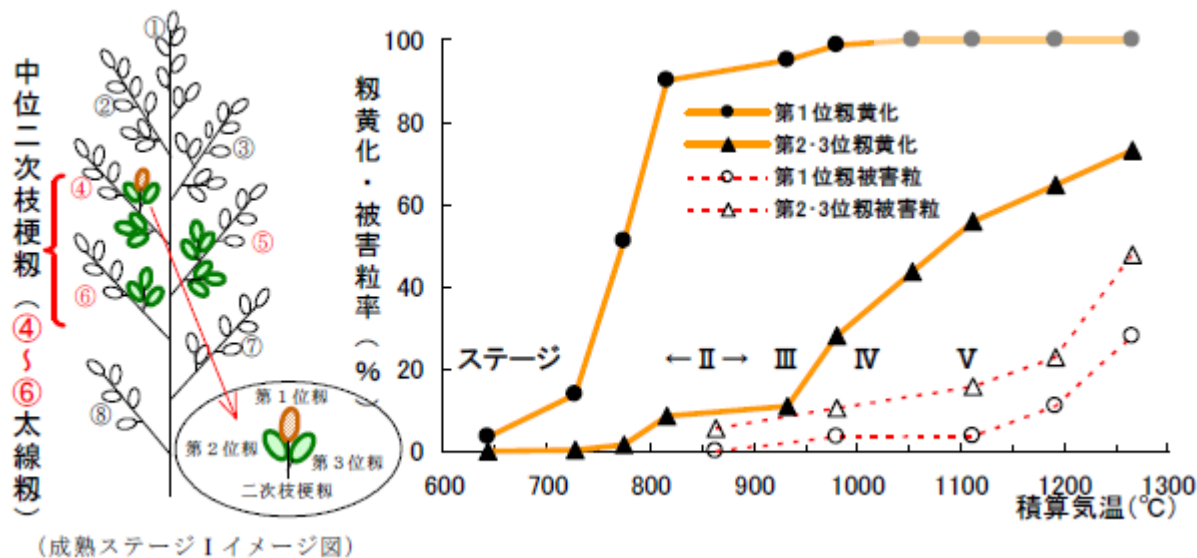


図 積算温度と穂の中位二次枝梗籾黄化率の推移

(3) 乾燥・調製

○コンバイン収穫した生籾を放置すると発熱して変質米の原因になるので、刈取り後は、速やかに乾燥機に張り込み、送風循環しましょう。

○倒伏した稲や未熟粒の多い稲などは高水分籾の混入が多いため、過乾燥となりやすく、胴割米の発生・碎粒の増加・光沢の低下など品質低下を招きます。

高水分籾を機械乾燥する場合は、二段乾燥を行い、水分ムラや胴割米の発生などを抑えましょう。

※二段乾燥とは：籾水分が 18.0%程度になったら火力乾燥を一時中断し、一定時間通風循環後、仕上げ乾燥を行う。

○仕上がり玄米水分 14.5%~15.0%が目標です。

○籾摺は、肌ずれ防止のため、籾の温度を室温まで下げてから行いましょう。また、ロール式籾摺機の場合は、籾(品種)に見合った適正なロール間隔に調整しましょう。

○異品種の混入を防ぐため、品種が変わる毎に機械類の清掃を行いましょう。

農作業安全確認運動 「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」
(令和8年9月1日から11月30日まで)

シートベルト・ヘルメットの着用を徹底！

路肩の踏み外しに
ご注意！

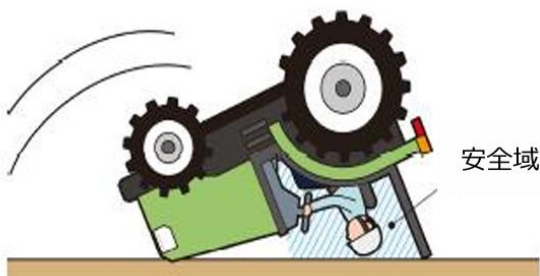


●乗るときは
安全フレームを立てる！

●危険箇所では
減速・迂回を！

全国農作業安全確認運動
農林水産省

安全フレーム・シートベルト着用
→転落・転倒時に安全域に
とどまることができる確率が高い！



- 安全フレーム・キャブ付き
トラクターの使用！
- シートベルト、ヘルメット
着用の徹底！

ほ場周辺の危険箇所の確認・改善と
危険回避行動を！



●危険箇所の確認・改善

農業機械が通る道路を事前にチェックし、可能な
場合は道路の拡幅などの改修やガードレール、路
肩ポール、注意標識等で危険箇所を明示しておく。

●危険回避行動

危険箇所での減速や迂回を実施する。

イラスト出典：農林水産省ホームページより抜粋 https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/kenshu.html
一般社団法人日本農業機械化協会ホームページより抜粋 <https://www.nitinoki.or.jp/>